

(別紙様式)

(A3判横)

平成29年度 学校自己評価システムシート (県立新座高等学校)

目指す学校像	みんなの心が共に響きあう学校
--------	----------------

重点目標	人として信頼され、志をもった生徒を育成する 1 確かな学力を身につける学習システムの下、すべての生徒が学ぶ喜びを実感する《学力の向上》 2 一人一人の生徒に徹底的に寄り添い、多様な生徒の進路希望を実現する《自己実現の醸成》 3 地域社会と連携し、チームとしての学校力の向上を果たす 《開かれた学校づくり》
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	8名
	事務局(教職員)	12名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	入学当初より、生徒の学力差には大きな幅があり、一斉授業形式では生徒の学習意欲及び学力の向上を図ることは難しい。生徒の学びに対する意欲を高め、学力の向上と定着を図るためには、生徒個々のニーズと実態を踏まえながら、授業の一層の工夫・改善と、家庭における学習習慣を定着させていくことが課題である。	○授業の工夫・改善による学習意欲の一層の向上と基礎学力の定着。 ○深い生徒理解による個別の支援が必要な生徒への指導の充実。	①少人数クラス編成、習熟度別授業展開を実施する。 ②協調学習を取り入れた授業を実施する。 ③基礎学力の育成を目指し、学習サポーターによる課外補習を実施する。 ④漢字や数学のコンクールなどの内部試験を実施する。 ①特別支援教育推進委員会を核とした、生徒理解のための研修会や情報交換会を実施する。 ②公開授業研究会の実施状況。 ③公開授業研究会を実施する。 ④生徒情報を教員間で共有するため、スクールカウンセラーを活用し、適時適切に対応する。	①少人数クラス編成、習熟度別授業展開の実施状況と成果。 ②学習サポーターの活用状況。 ③コンクール試験の実施状況。 ④学校生活アンケートにおける、授業満足度の割合。 ①特別支援教育推進委員会による研修会等の実施状況。 ②公開授業研究会の実施状況。 ③スクールカウンセラーからの情報を教職員全体で共有するとともに、適切な対応を取ることができたか。	○ 授業研究プロジェクト委員会を中心に授業改善を実施(達成) ①【少人数授業】1年国語総合【習熟度別授業】数学Ⅰ、A、Ⅱ コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ ②学習サポーター4名、95回(日)、364時間(12月末) 指導対象生徒(1年5名、2年9名:国・数・英について指導) ③漢字コン(2回)、数学コン(2回)、英単コン(3回)、英検ⅠBA(1回)実施 ④学校生活アンケートにおける、授業満足度はほぼ横ばい(肯定的回答(68.7%→67%)) ○ 深い生徒理解による個別の支援を積極的に実施(概ね達成) ①特別支援研修会(1回)、学校間連携による一貫した支援体制の構築モデル研究、中高連携会議実施(2回)、通級に関する研修会(1回) ②公開授業研究会を計6回実施。外部参観者(計80名) ③スクールカウンセラー(17回来校)(1/10現在)	A	○引き続き、授業研究プロジェクト委員会を中心とする授業改善を実施し、授業の工夫・改善を行いながら、今後、学習意欲の向上と基礎学力の定着を一層進める。 ○今後も、生徒一人一人に応じた深い生徒理解による個別の支援を進める。更に、県のモデル事業である通級を確実に実施する。
2	学校生活アンケートによる生徒の学校生活満足度は全校で70%(1年:65%・2年:73%・3年:81%)、保護者の満足度は93%と、両者とも高い。これは、日常からの学習・生活・進路等の各種指導が、生徒・保護者の理解を得ている結果と考えられる。生活指導や進路指導を、一層きめ細やかに実施していくことが課題である。	○集団生活を円滑に行うための規範意識と、基本的生活習慣の確立。 ○多様な進路希望を踏まえた系統的な先の見える進路指導の推進。	①遅刻指導、整容指導、校内外における登下校指導、自転車マナー指導を学校全体で実施する。 ②チャイム着席と挨拶等の授業規律の確立状況。 ③社会貢献・体験活動の実施状況。 ④学校生活アンケートにおける、規範意識に関する回答結果。 ①系統的な進路指導を行うための計画書を策定する。 ②学年と進路指導部との連携による、効果的な指導(全体・クラス・個別)を実施する。 ③企業・上級学校訪問、進路講演会・学習会等を実施する。	①各種生活面での指導を、学校全体の共通理解の上で実施できたか。 ②チャイム着席・挨拶等の授業規律の確立状況。 ③社会貢献・体験活動の実施状況。 ④学校生活アンケートにおける、規範意識に関する回答結果。 ①進路指導部と学年の連携のもと、3年間を見通した系統的な進路指導計画を立て、実施できたか。 ②企業・上級学校訪問、進路講演会・学習会等の実施状況。 ③学校生活アンケートにおける、進路に関する回答結果。	○ 生徒へ基本的な生活習慣の確立への指導を徹底(概ね達成) 生活満足度(生徒69%,保護者92%) ①生徒指導部主導で、全教職員に周知。学校全体で実施 ②出来ている生徒が多いものの、出来ない生徒もいる。 ③1年生全員で学校周辺の美化活動、花の球根植え、防犯等の啓発ポスター作成。今後外部へ配布予定。 ④学校生活アンケートの項目(校則やきほんの「き」を守っていますか。)の肯定的回答(80.1%→74%) ○ 概ね達成だが、学年間の連携を一層進める必要あり。 ①組織的な進路指導体制のもと、3年間を見据えた系統的な進路指導計画が策定されているが、学年裁量の部分が多い。 ②1年進路講演会(「高校3年間の有意義な過ごし方」について:外部講師(7/13))、2年進路ガイダンス(「上級学校模擬授業、職場体験」:外部講師、上級学校、近隣企業(7/13)) ③アンケート項目(生徒一人一人に対応したきめ細かい指導がなされている)の割合の肯定的回答を維持(82.5%→82%)	A	○基本的な生活習慣は徐々にできてきたものの、集団生活を円滑に行うための規範意識と、基本的な生活習慣の確立を目標とした生徒指導を進める。 ○多様な進路希望を踏まえたうえで、生徒の進路実現をより一層支援するための、3年間を見通した進路指導計画・手引きを充実させる。
3	学校案内はもとより、日頃の教育活動をホームページで小まめに情報発信している。その他、社会貢献の一環として、ボランティアによる近隣の清掃活動等を行っている。新座市内中学校をはじめ、地域に支えられ、また貢献することにより、一層地域に根差した学校として発展することが必要である。	○地域や関係機関との連携を通じた、開かれた学校づくりの一層の推進。 ○保護者やPTA等との一層の連携協力による学校の教育力の向上。	①地域の関係機関と連携した社会貢献活動等を実施する。 ②「学習サポーター」派遣等による早稲田大学との連携を強化する。 ③市内中学校との協力関係を深め、市内中学校の生徒・保護者に対する進路情報発信を行う。 ④学校内外での説明会等を積極的に実施する。 ⑤学校案内や広報誌(グリーンハーモニー)の発行、ホームページの更新を積極的に行う。 ⑥授業公開を積極的に情報発信していく。 ①学校の一層の活性化に向け、PTAの各専門委員会を核にして、PTA活動を活発に行う。 ②家庭との連携を一層強化するため、様々な機会を捉え、メール等により家庭への情報提供を行う。	①地域の関係機関や早稲田大学等との連携の状況。 ②市内の中学校との連携・協力関係の状況。 ③学校案内や広報誌の発行、ホームページの逐次更新等の状況。 ④授業公開や説明会等の情報を積極的に発信し、実施できたか。 ⑤生徒募集に関する取組状況。 ⑥HPや通知等での情報発信状況。 ①PTAの活動状況。 ②保護者アンケートにおける、学校からの情報伝達に関する設問に関する回答結果。	○ 開かれた学校づくりを積極的に推進(達成) ①3中区ふれあい協議会と連携し、社会貢献活動等を実施。 ②学習サポーター連携(早稲田大学1名、その他3名)。 ③新座中保護者説明会、朝霞第一中学校進路講演会、新座市内高校説明会をはじめ、中学校訪問(年3回)を行った。 ④学校案内や広報誌(グリーンハーモニー7号まで)発行、ホームページを相当数更新。(閲覧回数90.7万回) ⑤授業公開の情報をホームページと各高校への通知で発信。説明会の情報はHPや中学校訪問時にお知らせ。 ⑥彩の国進学フェア、外部の相談会(さんだる相談会)など参加。(12月時点志願倍率1.13倍(昨年同期1.09倍)) ⑦HPや通知等は随時 ○ 保護者やPTA等との連携協力は一定程度達成だが、次年度の高P連西部支部幹事校としての役割が課題。 ①年間の役員会・全大会の他、体育祭における給水補助、PTA企画(絵手紙作製講座)を9/30実施。文化祭で出し物あり。 ②HP掲載及び緊急メール発信の肯定的回答割合(81%、93%)	A	○引き続き地域や関係機関との連携を通じた、開かれた学校づくりを推進していく。 ○保護者やPTA等との連携協力による学校の教育力の向上を引き続き行っていく。

学校関係者評価
実施日 平成30年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>○基礎学力の定着を目標にし、具体的な方策を数多く実践している。一方、その取組の結果の変容状況を計る物差しがあるとよい。 ○授業に、協働学習を導入することで学習に興味を湧いたり、理解も深まると考える。その結果、落ち着いた授業となり、生活面にも良い影響を与えているように思う。 ○生徒が活用できる参考書や問題集が教室に用意されるなどの工夫があるとよい。 ○授業の工夫・改善による、学習意欲の向上と基礎学力の定着を一層進めてほしい。 ○県のモデル事業である通級も含め、今後も、生徒一人一人に応じた深い生徒理解による個別の支援を進めてほしい。</p> <p>○学校生活アンケートにおける保護者の生活満足度が90%を超えている事に驚いた。校長先生のリーダーシップのもと、教職員のネットワークの良さが学校への信頼を厚くしていると考える。 ○教員間、生徒間はもちろんのこと、教員と生徒間においての、より一層の挨拶の確立をお願いしたい。 ○通学の様子においても声をかけあって道を譲ってくれたり、日頃の指導が結果に表れている。授業時間に外で生徒を見かけることも殆どなくなった。 ○多様な社会において、進路選択先の適格な情報、手引きを引き続き充実してほしい。 ○先生方に気軽に相談できることは、保護者にとって、とても心強いと考える。</p> <p>○HPの閲覧回数(90.7万回)に保護者の関心の高さが伺える。それ以上に、積極的にありのままの姿を発信しようとする校長先生の信念が伝わってくる。 ○校長先生のブログやGreenHarmonyで学校の様子が良く分かり、保護者以外の人にも開かれているように思う。 ○開かれた学校づくりを今後も継続維持してほしい。また、地域の高校として繋がりを続けてほしい。</p> <p>○保護者やPTA等との一層の連携協力をお願いしたい。</p>